

資料No. 2

みやのうえ保育園整備事業プロポーザル結果について

1 選考までの過程

月日	内容
令和6年3月25日	プロポーザル実施公告及びホームページ掲載
4月23日	第1次審査（書類審査7社）
6月12日	技術提案書提出期限
6月24日	第2次審査（プレゼンテーション及びヒアリング3社）

2 第2次審査（プレゼンテーション）

3社から技術提案書の提出があり、プレゼンテーション及びヒアリングによる2次審査（100点満点）を実施し、結果は以下のとおりです。

◆最優秀提案者（優先交渉権者） 株式会社 手塚建築研究所

3 主な提案内容

- ・海に漕ぎ出すような船をイメージした新園舎
- ・シンボルツリーのクスノキやモミジを遊戯室に取り込み、ここにしかない園の魅力作り
- ・外廊下は行き止まりのない回廊
- ・外周の深い軒下は日差しを遮り、また雨の日でも外気の取入れが可能
- ・駐車場を3台確保

4 費用（税込）

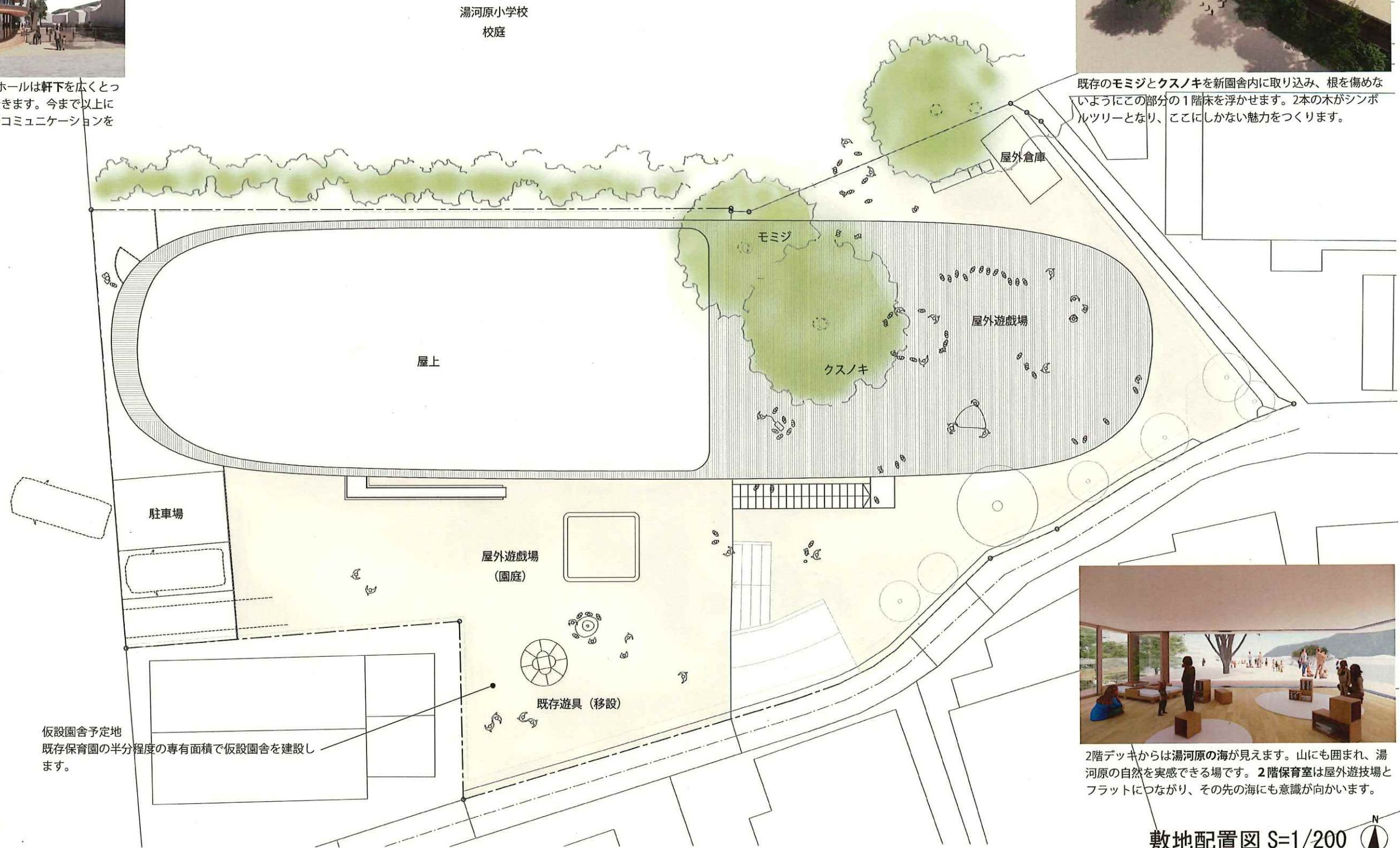
- ・基本設計・実施設計費用 約2,300万円
- ・工事費概算 約5億円



駐車スペースが3台あり、玄関ホールは軒下を広くとっており安心して園児の送迎ができます。今まで以上に保護者と保育士の間で送迎時のコミュニケーションをとることが可能になります。



既存のモミジとクスノキを新園舎内に取り込み、根を傷めないようにこの部分の1階床を浮かせます。2本の木がシンボルツリーとなり、ここにしかない魅力をつくります。



2階デッキからは湯河原の海が見えます。山にも囲まれ、湯河原の自然を実感できる場です。2階保育室は屋外遊技場とフラットにつながり、その先の海にも意識が向かいます。

船の保育園

この地に蓄積された魅力、恵まれた自然環境と船のような新園舎によってこの場所にしかない魅力的な環境を創り出します。敷地北側に新園舎を配置し、シンボルツリーである既存のクスノキとモミジは根を傷めないように建物の中へ取り込みます。敷地の高低差もそのまま活かしつつ、立体的な回遊動線を計画し、園児たちの自発的な学びにつながる活動を誘発します。2Fデッキの触先は湯河原の海に向かって開かれています。湯河原の将来を担う子どもたちを未来まで運ぶ、新しいみやのうえ保育園が生まれます。

優れた音環境は教育環境にとって最も大切な要素の一つです。残響をコントロールしながら心理的に必要なバックグラウンドノイズをコントロールする空間設計とします。保育室間には壁がなく互いの音が聞こえますが、天井には吸音ボードを貼ることで、子どもたちは適度なバックグラウンドノイズの中で育ちます。聴覚に関する知覚過敏は、静穏状態で引き起こされる事が知られています。園舎の設計には適度な吸音とバックグラウンドノイズのバランスがとても大切です。

保育空間は各層がおおらかな一室空間です。可動式の家具によって空間を仕切ったり、全開放して遊戯室と一体的に使ったり、フレキシブルに様々な保育のシーンをつくることができます。1F、2Fともにぐるぐると走り回れる、行き止まりのない回遊空間を計画します。子どもたちが積極的に運動したくなる環境であることはもちろん、給食の配膳ルート、バリアフリー動線としても機能します。また、建物のどこからでも屋外に出ることができるため、最短のルートで迅速な避難が可能です。

建物を北側に配置し南側の隣地からはセットバックするとともに東側は1階建てとし、近隣への日影の影響を抑えます。駐車場は3台分のスペースを確保することで送迎時の保護者と保育士のコミュニケーションの時間をゆったりとれます。シンボルツリーのモミジとクスノキは保育園だけではなく小学校からも見える風景です。みやのうえ保育園と湯河原小学校が一体のランドスケープを構成し心地よく共存する環境をつくることで湯河原の子供たちがのびのび学ぶ場とすることを目指します。



屋上デッキ

木を囲んでデッキで縦横無尽に走り回ることができます。回廊は行き止まりのない安全な避難動線であり、屋外階段からまっすぐ道路に通じ、災害時の避難も容易です。

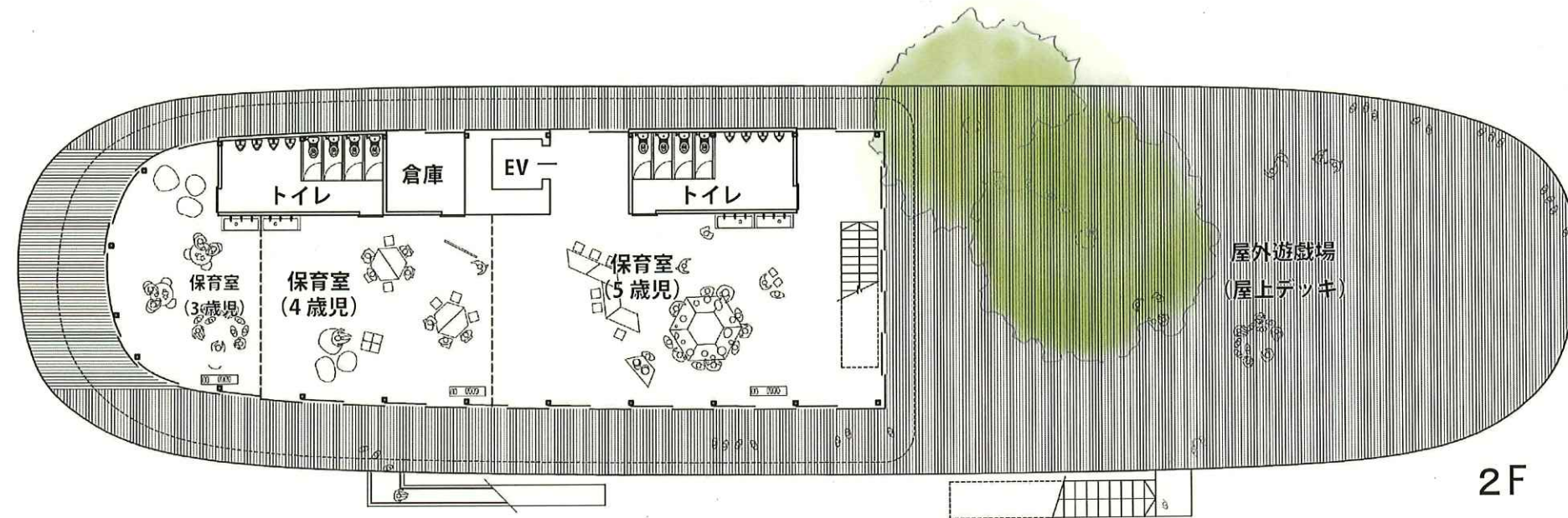
舳先の遊戯室

海へ視線が抜ける東端に遊戯室を設けます。回廊を介してどこからでも園庭に出られます。ステージを可動式のものにとすると、より広く空間を利用することが可能です。

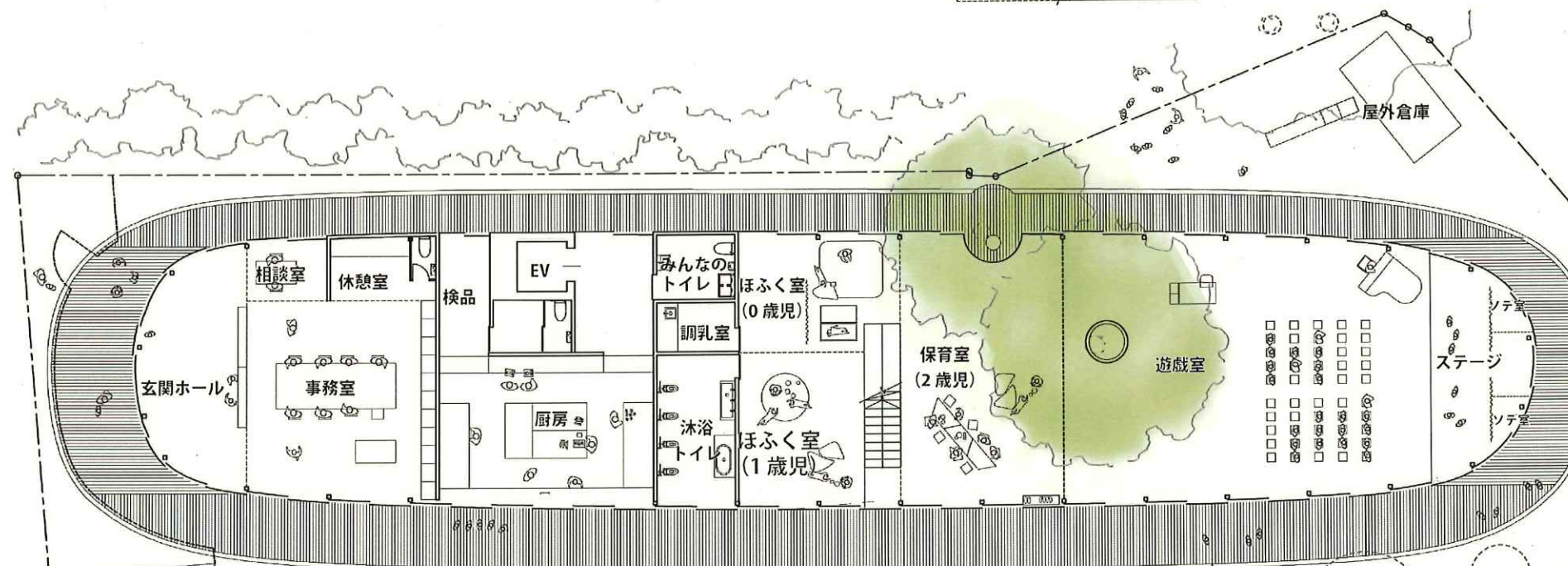


行き止まりのない回廊

緩やかなカーブを描く行き止まりのない回廊で子供達が目一杯走り回ることができます。回廊は炎天下では陽を遮り、雨天時は全天候型のトラックになります。



2F



1F

平面図 S=1/200



園庭に面する深い軒

部屋は南向きの明るい園庭に開かれています。深い軒に守られた大きな開口部は、雨の日でも全開放可能です。夏には日差しを遮り、冬には奥まで暖かい陽を届けるように軒の深さを調整することで、1年を通し空調負荷を減らします。



大きなお迎えの軒下

雨に濡れられず安全で快適な子供の受け渡しが可能です。事務室が隣接し、子供の登園確認と、入の出入りの確認が容易に行え、不審者の侵入を抑制します。事務室、厨房、保育室への動線を短くまとめ、運搬しやすく、全ての人が働きやすい環境を可能にします。

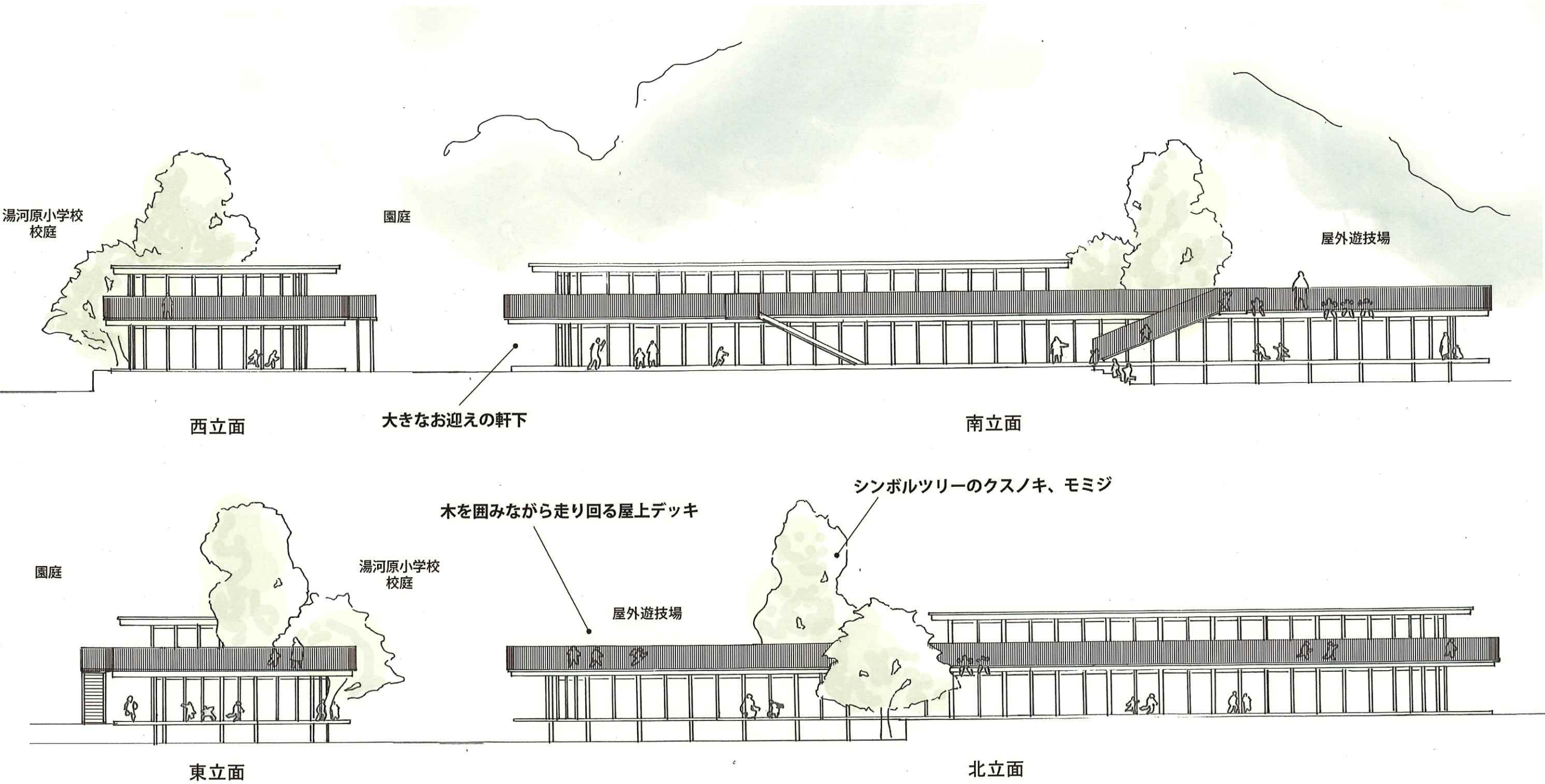


子どもたちの成長はおどろくほどに早いものです。インタラクティブで多様性にあふれた様々なシチュエーションを想定する必要があります。そのため保育室に求められるものもその時々で変わります。この園舎にはシンプルな構成の中に多様な選択肢があり様々な活動が見え隠れしながら、緩やかにつながり、子供達が自発的に活動する機会にあふれています。保育室は間仕切り壁の無い一体的な設えとし、可動式の家具等によってフレキシブルに空間を変え、そのときに合った環境に調整することが可能です。

子どもの発達スピードは子供により違います。発達の遅い子や早生まれの子供も、安心して人間関係の中における居場所を作る事が出来ます。大きく囲うことも小さく囲う事も可能な優しい空間です。既存階段とスロープから新築部分の階段へとつながることで、高低差を活かした立体的な動線ができます。この場所ならではの活発な運動を促し、子どもたちの体力をつくります。手すりを設けて安全な構造とします。

すべり台で2Fからも園庭へ飛び出すことができます。すべり降りることが楽しく、子どもたちはまたデッキへ上ります。すべり台は避難動線としても機能します。既存の樹木を新園舎に取り込み、根を傷めないように1階床を浮かせます。1階床レベルは道路側の高さにすり付き、段差が無くフラットで、バリアフリーに配慮した動線となります。敷地の高低差、擁壁はそのまま活かすことで、造成に掛かるコストも削減します。

厨房動線は、食材の搬入、検品室での受け取り、厨房での調理、各保育室への配膳を考慮しシンプルかつ機能的にまとめます。2Fへの配膳はエレベーターを使用します。子どもたちは廊下から厨房の様子を見ることができ、食への興味を刺激します。ステージは東端に設え、建物形状を活かしたソデ室を設けます。回廊からのアクセス性も良いです。置床タイプのステージとする場合は、遊戯室のフレキシブルな使用にも対応できます。



園庭に開かれた保育室

深い軒に守られた外廊下。園庭へ直接出ることができ、雨の日でも自由に開け放ち外気を呼び込むことができます。保育環境にとって深い軒下は大切です。子どもたちにとって温度変化がありつつも雨や雪から守られた中間領域が、体の適切な発達をもたらします。こどもたちが木と共に育ち、土と共に生きます。伐採せず残すクスノキとモミジは卒園生が毎日小学校からも見ることができ、思い出に深く残るシンボルツリーとなります。

木と木質化

木は人に愛される傾向があります。それは人間にとって木は、文明が始まる前から慣れ親しんだ材料であるからです。鉄骨造、鉄筋コンクリート造にせよ、最終的に人が触れる部分である床や手すりは木造になります。目に見える場所、手に触れる場所を重点的に木質化し、親しみやすく居心地の良い空間に設えます。園舎は経済スパンによるシンプルな構造で標準的な材料・仕口でつくり、イニシャルコスト及び維持管理コストを抑えます。

気候風土に呼応する

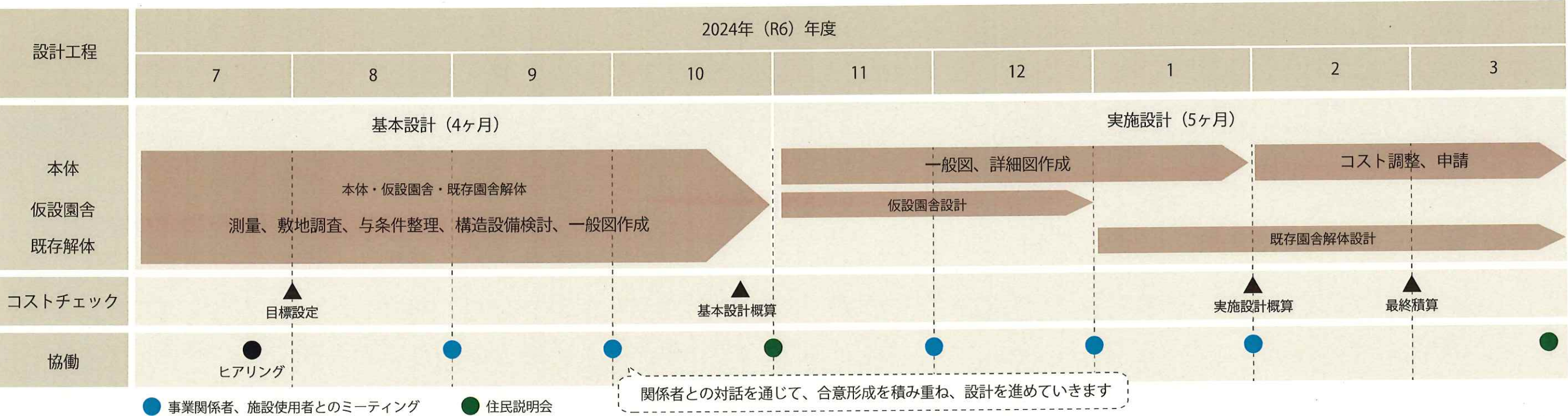
湯河原は1年を通じて温暖な恵まれた気候にあります。深い軒に守られた大きな開口部は雨の日でも全開放可能です。夏には日差しを遮り、冬には奥まで暖かい陽を届けるように軒の深さを調節します。パッシブな採光換気と合わせて快適な空間と省エネを共に実現することが可能です。また自然に囲まれた環境は風の抜ける心地よい屋内外の空間をつくります。断熱がしっかり施すことにより、中間期は暖冷房無しで快適に過ごすことができます。

寒冷期はオンドル式の床暖房を駆使すれば、短時間床面を温めるだけで快適性を保てます。このような条件下では上履が必要でなくなります。裸足は高温多湿なモンスーン気候において自然な生活習慣です。深い軒による日射取得のコントロールとの掛け算で、快適かつ省エネにも配慮した空調システムとします。更新に配慮した機械設備配置によってライフサイクルコストの削減にも配慮します。1年を通じて心地よい環境が子供たちの健やかな成長を支えます。



工程表 (案)

手順と課題の見える化を徹底し、事業関係者や施設利用者と、決定事項や問題解決のスケジュールを共有し、手戻りのない業務をします。



保育施設の経験が豊富な専門家たち（構造、電気、機械、ランドスケープ、照明、音響）で設計チームをつくります。
フロントローディングにより、コストと工程の管理を徹底します。

